

フルミオWDG圃場アンケートについて

大豆編

住友化学株式会社

参加者等

農業技術センターにて、大豆除草剤の視察会を実施しアンケートを合わせて実施。

参加人数：88人 アンケート：75枚回収



大豆除草剤試験概要

播種日：5月16日

反復：2反復、いわいくろ・ユキホマレ

散布日：5月17日、5月19日、5月24日

散布量：10a換算で調整

※()内は播種日からみて

番号	薬剤	処理量	工程	薬剤	処理量
①	フルミオ(+1日)	10g	⇒	茎葉処理剤(+21日)	200ml
②	フルミオ(+8日) 散布遅れ	10g			
③	フルミオ(+8日) 散布遅れ	5g			
⑤	フルミオ(+3日) 適期	10g			
⑦	フルミオ(+1日)	7g	+	C剤	
⑧	フルミオ(+3日) 適期	7g	+	C剤	
⑨	フルミオ(+1日)	7g	+	D剤	
⑩	フルミオ(+3日) 適期	7g	+	D剤	
⑪	フルミオ(+14日)	5g			

0.66m	0.66m	0.66m	0.66m
⑫		⑪	
⑩-2		⑩-1	
⑨-2		⑨-1	
⑧-2		⑧-1	
⑦-2		⑦-1	
③-2		⑥-1	
②-2		⑤-1	
①-2		④-1	
無処理②		③-1	
⑥-2		②-1	
⑤-2		①-1	
④-2		無処理①	
いわいくろ		ユキホマレ	

④、⑥区については他社剤のため、今回公表せず。

試験薬剤選定のねらい

単剤

【①フルミオWDG 10g(+1日) ⇒ 茎葉処理剤(+21日)】

- ・フルミオWDGはイネ科には効果が劣るため、イネ科優占圃場では、体系処理としてイネ科剤を適期に散布することをオススメとしている。また、播種後翌日の散布での広葉雑草の効果確認

【②フルミオWDG 10g(+8日)】

- ・適期から遅れた場合、どの程度薬害が発生するのかを検証

【③フルミオWDG 5g(+8日)】

- ・適期から遅れた場合、どの程度薬害が発生するのかを検証および②の10g散布との薬害度合を検証

【⑤フルミオWDG 10g(+3日)】

- ・基準。単剤使用にて、効果および薬害。また、イネ科の効果を確認

試験薬剤選定のねらい

フルミオWDGとの混用

メーカーとしては、使用の推奨はしていませんが、フルミオ単剤だとイネ科に対しての効果が弱いため、現場では葉害リスクを認知の上混用している実態が多いため検証。

【⑦フルミオWDG 7g(+1日) + C剤】

- ・単剤よりフルミオの薬量を落とし、イネ科剤との混用。播種後翌日で単剤との効果差、葉害の確認。

【⑧フルミオWDG 7g(+3日) + C剤】

- ・⑦と散布日が異なり、翌日散布との効果差、葉害の確認

【⑨フルミオWDG 7g(+1日) + D剤】

- ・他社新規剤で適用最大薬量にて散布。効果および葉害の確認

【⑩フルミオWDG 7g(+3日) + D剤】

- ・基準。単剤使用にて、効果および葉害。また、イネ科の効果を確認

【⑪フルミオWDG 5g(+14日)】

- ・出芽後のため、適用外使用となりますが、葉害度合の検証

大豆除草剤試験概要

【概略】

弊社剤であるフルミオWDGを中心に、播種後翌日、散布適期、散布遅れ（メーカー非推奨）、で散布を行ったときの効果および葉害を検証。

【検証】

- ・播種翌日、適期で散布した場合の効果差の比較
- ・播種翌日、散布適期、散布遅れ、および散布薬量の違いによる葉害の確認
- ・他社剤との効果比較
- ・フルミオWDGの混用時の葉害および効果、単剤との葉害度合の比較

単剤区での確認内容および予測

【確認内容】

1. ②、③の比較・・・薬量の違いによる、効果および葉害度合の比較
2. ②、⑤の比較・・・散布日の違いによる葉害の比較
3. ①、②、⑤の比較・・・同じ薬量における、異なる散布でのフルミオの広葉に対する効果および葉害
4. 無処理、①、⑤の比較・・・イネ科雑草へのフルミオ単剤の効果および体系処理比較

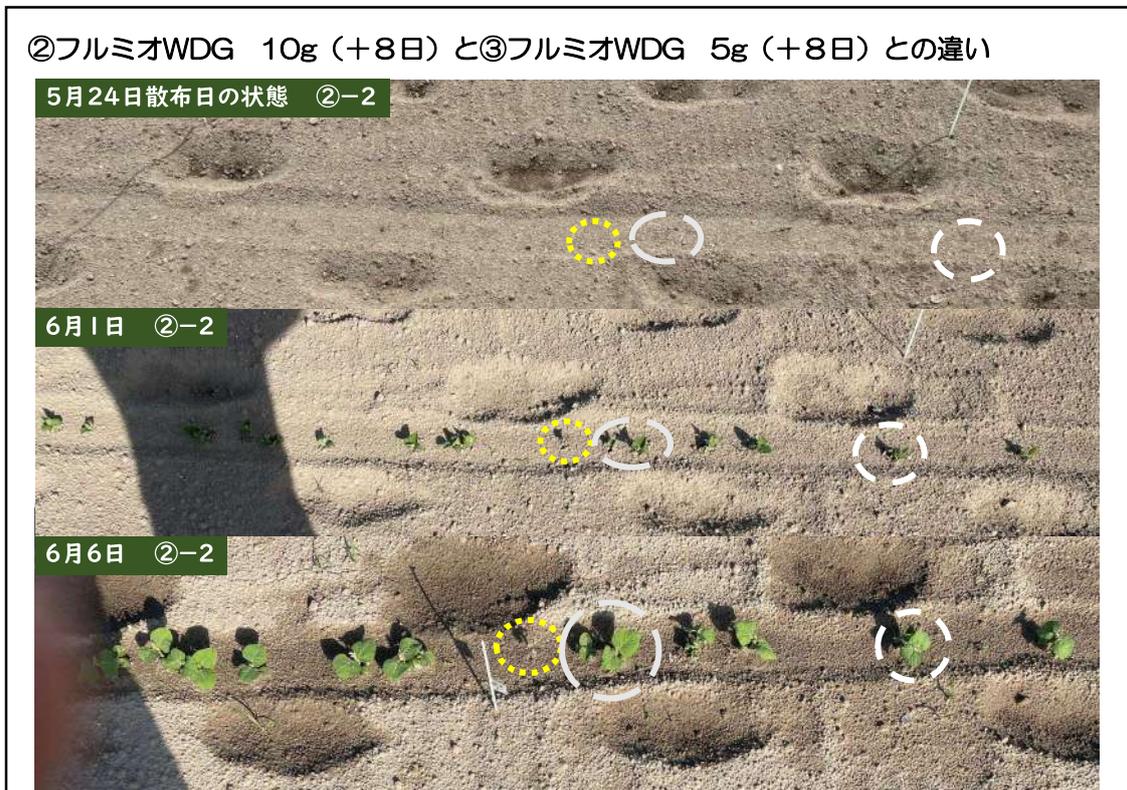
【①フルミオWDG 10g (+1日) ⇒ 茎葉処理剤+21日】
 【②フルミオWDG 10g (+8日)】
 【③フルミオWDG 5g (+8日)】
 【⑤フルミオWDG 10g (+3日)】



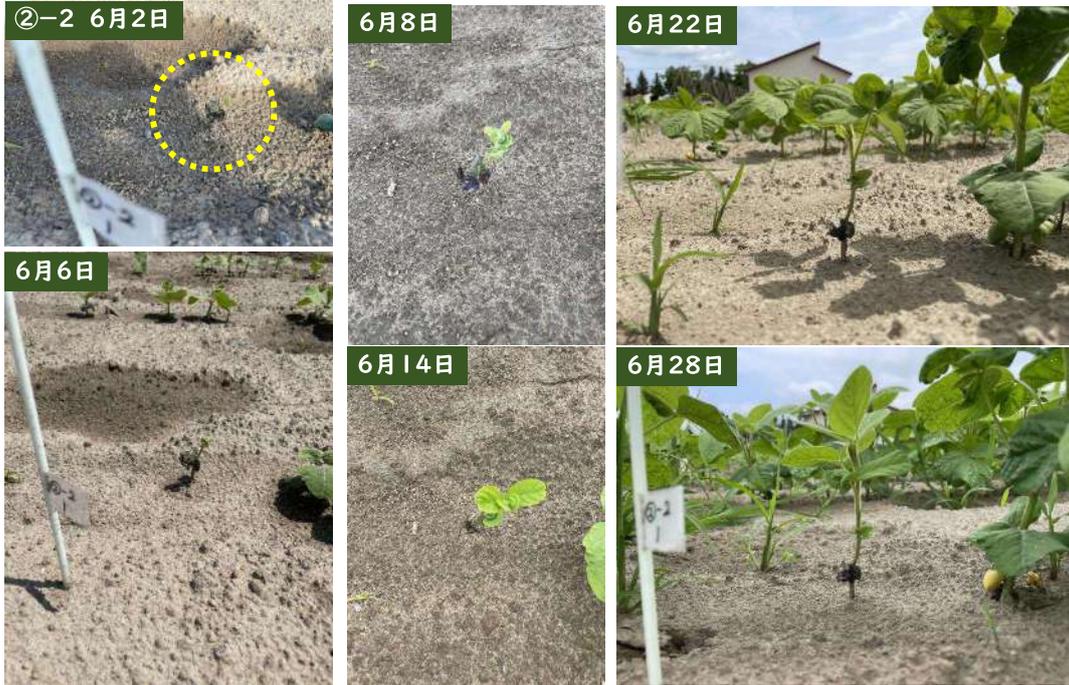
イネ科が圧倒的に多い圃場、広葉はヒユ科のアオゲイトウが多く、アカザも見られた

②フルミオWDG 10g (+8日) と③フルミオWDG 5g (+8日) との違い

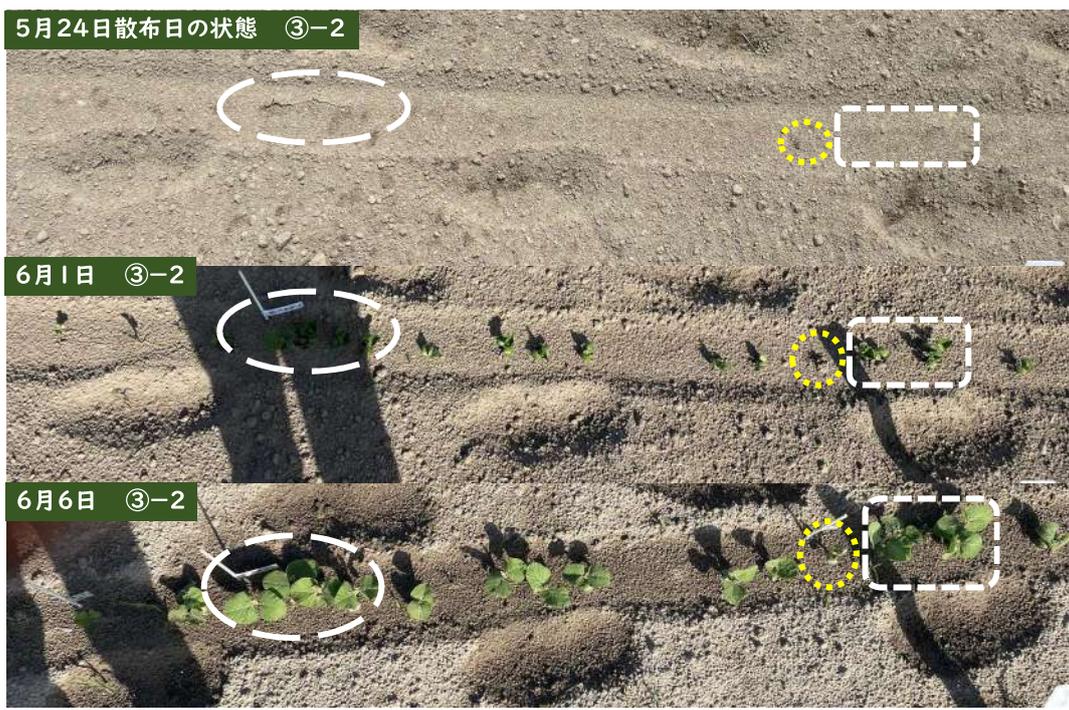




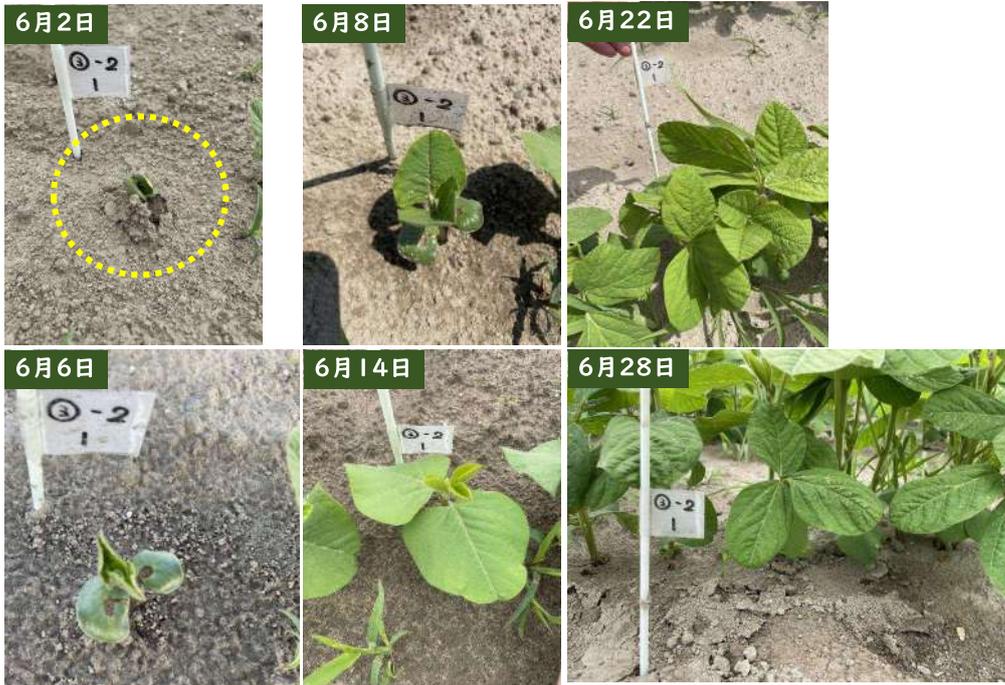
②フルミオWDG 10g (+8日) と③フルミオWDG 5g (+8日) との違い



②フルミオWDG 10g (+8日) と③フルミオWDG 5g (+8日) との違い



②フルミオWDG 10g (+8日) と③フルミオWDG 5g (+8日) との違い



②フルミオWDG 10g (+8日) と③フルミオWDG 5g (+8日) との違い

【効果の違い】

- ・イネ科においては、多少10gの方が良い結果であった。
- ・広葉雑草においては、今回の試験圃が広葉が少ない状況であったが、効果差もあまりない状況。

②フルミオWDG 10g (+8日) と⑤フルミオWDG 10g (+3日) との違い



【⑤区】

- ・薬害症状はほとんど見られず。
- ・⑤-2にイネ科が多発（優占圃場である）

②フルミオWDG 10g (+8日) と⑤フルミオWDG 10g (+3日) との違い

6月9日 (+26日)



6月28日 (+45日)



【結果】

- ・散布が遅れることにより、初期生育での葉害は見られたが、最終的に全体像で観察すると生育は変わらなかった（前ページに添付した写真のような葉害は⑤では見られず）
- ・効果面も変わらず
⇒ 土壌処理剤のため、散布日が早いほうがイネ科への効果の期待もあったが差がなかった

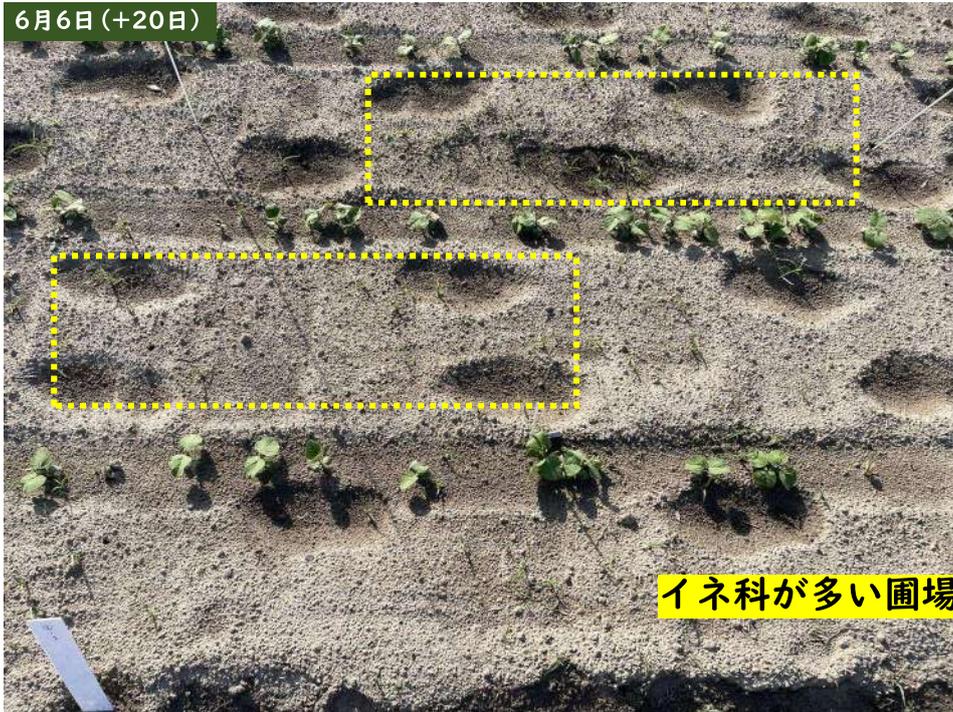
【①フルミオWDG 10g (+1日) ⇒ 茎葉処理剤 (+21日)】

5月30日 (+14日)



【①フルミオWDG 10g (+1日) ⇒ 茎葉処理剤 (+21日)】

6月6日 (+20日)



【①フルミオWDG 10g (+1日) ⇒ 茎葉処理剤 (+21日)】

6月8日 (+22日、ナブ散布後+1日)



【①フルミオWDG 10g (+1日) ⇒ 茎葉処理剤 (+21日)】

6月13日 (+27日、茎葉処理剤散布後+6日)



イネ科が枯れてきている

【①フルミオWDG 10g (+1日) ⇒ 茎葉処理剤 (+21日)】

6月28日 (茎葉処理剤散布後+21日)



7月7日 (茎葉処理剤散布後+31日)



【オススメな方】

・イネ科雑草が少なくコストを抑えたい方

⇒フルミオ単剤でしっかり、広葉を抑えることができ、イネ科が少なければコストカットに繋がる。

もし、発生が見られた場合は茎葉処理剤でイネ科雑草を抑制する。

混用区での確認内容

【確認内容】

1. ⑦、⑧の比較・・・散布日による効果、葉害の比較
2. ⑨、⑩の比較・・・上記同様
3. ⑦、⑨および⑧、⑩の比較・・・混合剤同士の効果、葉害の比較
4. 混合剤とフルミオ単剤の効果比較

⑦フルミオWDG 7g (+1日)	+	C剤
⑧フルミオWDG 7g (+3日)	+	C剤
⑨フルミオWDG 7g (+1日)	+	D剤
⑩フルミオWDG 7g (+3日)	+	D剤

①-2 6月8日 (茎葉処理剤散布後+1日)



①-2 7月7日 (茎葉処理剤散布後+31日)



⑦フルミオWDG 7g (+1日) +C剤、⑧フルミオWDG 7g (+3日) +C剤の違い

6月9日 (+26日)



6月28日 (+45日)



葉害・効果面の差はほぼ見られず

◎フルミオWDG 7g (+1日) +D剤、⑩フルミオWDG 7g (+3日) +D剤の違い

6月9日(+26日)



6月28日(+45日)



薬害・効果面の差はほぼ見られず